

地区協わかば

発行者: 若葉学校地区協議会
 会長 藤丸 卓男
 事務局: 調布市立若葉小学校内
 連絡先: 調布市協働推進課
 042(481)7036
 地区協mail:
 wakabatikukyo@gmail.com

防犯座談会 ～特殊詐欺～

今特殊詐欺の被害が急増しています。(グラフ参照) 若葉学校地区では市全体の増え方を凌ぐ勢いです。

この事態を背景として、2月9日防犯座談会を東部公民館で開催しました。テーマは「地域の特殊詐欺対策」です。座談会と市の出前講座を組み合わせ、東部公民館との共催で、53名の参加がありました。前半1時間はDVD上映と騙し絵による思い込みの危険が解説され、後半の1時間は参加者によるグループ討議とその結果が発表されました。

写真は当日の熱気を映すひとこまですが、以下の考察は、講座内容とグループ討議の内容を踏まえて、地区協防犯委員会で深読みしたものです。

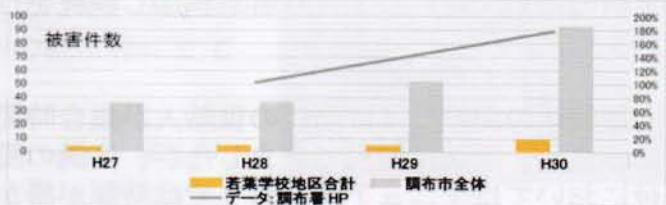
警察をはじめとして行政が特殊詐欺に関する情報を頻繁に発信し、居住者に向けた対策を提示しているにも関わらず、昨年は被害が急増しました。今、地域の居住者にとっての対応の有効性が問われていると考えます。(地域居住者による情報の受け止め方は果たして十分だろうか?) 行政が発信する情報を、地域では居住者同志が共有することが効果的であり、それが被害の抑止につながる、と考えます。「地域での情報の共有化」がキーワードです。では、地域で情報を共有化するには、居住者は何をすればよいのでしょうか。

遠回りのようですが、お隣さんとの日頃の挨拶、ご近所付き合い、井戸端会議、ママ友談議、等の中で話題にすることが、即ち、「地域における情報の共有化」だと考えます。従って、これからは自分の家族だけではなく、お隣さん同志が互いにお節介とならない程度に、もっと関心を持ち合うことが求められています。

そんな思いが滲むグループ討議の結果発表だったと感じています。

< 特殊詐欺被害発生状況/件数 >

地域/年	H27	H28	H29	H30
若葉学校地区合計	3	4	4	9
調布市全体	36	37	52	93
データ: 調布署HP		103%	141%	179%



H30年度防災訓練

平成30年度の地域防災訓練を10月28日（日）に第四中学校（市指定避難所）を会場に開催しました。

今年度は春から「避難所運営マニュアルの見直し」を防災推進委員会にて検討してきましたので「住民自らが避難所マニュアルに則って避難所を開設し、住民の受け入れを実践する」をテーマとしました。また、四中体育館がマンホールトイレ等の避難所用設備が整備されたことや、開会式を体育館で実施する事としましたので、事前に各班リーダーにより資材と動線の確認をしました。

当日は天候にも恵まれ、行政・消防・地域の住民・四中生徒（例年参加した神代高生は定期試験のため欠席）の250名が参加し訓練を行いました。

避難所の開設はほぼ全員の世話人が集合時間に参集し、順調に開設できましたが、住民の受付においてはマニュアルどおりでは時間が掛かり滞ったため、応急対処しました。また、仕分けの方法等の準備が必要なことなどの、課題を抽出できました。

実技、体験訓練では「救出→搬送→応急救護」のシナリオで実施し、多くの方に参加して頂き、応急救護は時間が不足してしまいました。「AEDや三角巾の使い方」については、年に一度、防災訓練を利用して是非おさらいをして頂きたいと思います。

今回初めて実施した、脱出シュートによる校舎4Fからの脱出訓練には、86名が参加し、最高齢は82歳の方でした。貴重な体験をされました。

食糧、炊き出し班の汁物は、被災初日を設定し具の入っていない物を提供しましたが、来年度は2日目以降なども検討したいと思います。



今年度の訓練は課題もありましたが、予定した項目はほぼ実施することが出来ました。世話人と四中防災ボランティアメンバーにしっかりとやって頂き、地域の皆さんが参加して頂いた成果です。ありがとうございました。



◇四中菱沼校長先生から反省会での挨拶

今年は23名が参加し、彼らには「自分で仕事を探してみよう。充実感を感じられるようにやってみよう。」というテーマを与えた。

今日はそれぞれが積極的に働くことができたようで、とても満足していたようだ。中学生の自分でも、何かの際に役にたてるのかもしれないと自信をつけたようだ。

(防災推進委員長 渡辺 要三)

夜間防災訓練

阪神大震災から24年、東日本大震災から8年、長い月日の中で恐ろしい記憶が薄れている。大震災が起これば、避難所生活、ライフラインが全て戻るには長期に及ぶ時間がかかる。

四中で毎年行っている夜間の避難所開設訓練を、2月12日(火)18:00から四つ葉学校防災協議会メンバー、若葉学校地区協議会、地域住民有志、四中職員、市総合防災安全課が参加し実施した。今回は状況付与訓練とトランシーバーを使用する訓練も試みた。

20名以上そろったので行動開始。避難所となる体育館を開錠。マニュアルに添ったチェックリストを作り、各リーダーのもと3～4名の班を編成し安全点検をする。体育館内(窓ガラス割れ床に散乱、停電と想定)、体育館外回り(外壁破損、窓ガラスが割れてカーテンが外になびいている、校庭に亀裂ありと想定)と同時に備蓄庫からの資機材の準備(照明器具を持ってくる)を指示した。トランシーバーを使用する状況確認訓練は初めてであり、スムーズにできなかったが各担当リーダー等、連絡には必要であると感じた。

避難所の確認後、市防災課から発電機、照明などの使用手順の説明を受けた。また、ハイブリッド発電機より体育館の非常用電源の切り替え手順の説明の後、体育館の照明を復帰、そして備蓄庫にあるLED照明スタンドの使用方法を復習し、訓練は終了した。

寒さ厳しい中の夜間訓練参加、ありがとうございました。



(四つ葉学校防災協議会 会長 笠木 勝司)

普通救命講習

地区協・防災推進委員会主催の「普通救命講習会」が2月3日（日）午前9時～12時まで、若葉小学校和室で23名の参加者で行われた。

初めに講師による講義があり、突然の事故や救急車を呼ぶような現場に遭遇したとき、最初の7～8分が命を左右するので救命講習を身に付けておけば大切な命をつなげることができる、と話しがあった。

次にAEDを使った実習が参加者交代で行われ、心肺蘇生とAED訓練が行われた。心肺蘇生の胸骨圧迫は途切れなく行わなければならない結構きついものがあった。



その他、気道異物の除去、止血法、などを学んだ。

最後に講師より、病院に行くか救急車を呼ぶか迷った時、#7119が電話でもネットでも24時間対応しているので覚えて欲しい、と話しがあった。

（防災推進委員 星野 正雄）

AEDはどこにある？

みなさん、AEDってよく聞きますが何かわかりますか？ 人が倒れた時に使っているのを見かけたことがあるかもしれません。心停止の時に電気ショックが必要かどうかを判断し、必要に応じて電気ショックを与える機械です。私たちの命を守る大切な機械ともいえます。正式名称は、Automated External Defibrillator、略してAED、翻訳は自動体外式除細動器。ちょっと長くて覚えにくいから、AEDという言葉で定着しています。

小学校や公民館など市が運営する施設にはAEDが設置されています。若葉地域では、若葉小学校、第四中学校、東部公民館、入間地域福祉センター、ぷちぽあん（入間町地域密着型認知症デイサービス）、希望の家分場、図書館若葉分館、東部児童館、わかば学童クラブなどに設置されています。

玄関や保健室などわかりやすい場所にあり、誰もが使うことができます。まったく初めてだと使う時に戸惑ってしまいます。皆さんの身近にいる大切な人を守るためにも、ぜひ使い方の講習を受けましょう。AEDの使い方の訓練は、地域の防災訓練でも毎回実施しています。



第四中学校 玄関



若葉小学校 玄関



若葉小学校 保健室

（広報・地域交流推進委員 石川 慶子）